



第3回 子ども歴史学習会 小・中・高「丸岡城サミット」風景 3月6日 平草小学校(P4・5記事)

世代をこえた対話が

つなぐ丸岡城

竹吉 睦

小学校の集団登校の小さな列や、学校の空き教室が増えている様子を目にする、新聞などで目にする「少子化」という言葉を実感せざるを得ません。

一方、多くの人々が地域を支える活動に携わるなか、その平均年齢がだんだん高くなってきており、まさに、「高齢化」を身近に感じる現状です。

行政、企業、学校、地域がそれぞれ「少子高齢化」の問題意識を抱えながら、それぞれの枠のなかで対策を話し合うのでは、効果的な改善策がはかれないのではないかと。そのような思いが、学・産・地の枠を超え、年代を超えた対話と交流を促す試みとしての、小・中・高「丸岡城サミット」の開催につながりました。

私たちには、先人から受け継いできた地域の伝統や文化を次の世代に伝えていくという大きな役割があります。

地域の伝統文化の象徴である「丸岡城」を次の世代に伝えていくために、小・中学生から高齢者までが、自分の言葉で「丸岡城」への想いを語り合い、各人の想いを受け止め合い、相互に支え合いながら、「丸岡城」を中心としたコミュニティ（共同体）として、「まちづくり」に取り組んでいくことが大切だと思います。



安全な場所へ、 安全な段階で 避難!!

いつどこで発生するかわからない集中豪雨による水害・土砂災害から命を守るために最も有効な対策は、「安全な段階で安全な場所へ避難すること」。

近年、全国各地で大雨や台風による被害が相次いでいて、短時間に極めて大量の雨が降る集中豪雨も頻発。毎年、各地で土砂災害などを引き起こし、大きな被害が発生している。これらの水害や土砂災害から命を守るために、何を備えなければならないのか、どのような行動が必要なのかを、自助・共助の視点で講演を行った。

データその1：避難勧告が出てから行動するまでに20分かかっている。
データその2：逃げるためにドアを開けるまで、さらに20分かかっている。
データその3：避難所に安全に到着するまで、さらに20分かかっている。

つまり実際には合計1時間が過ぎ去っているのが現状だ。他人に頼らず、まず自分の命は自分で守るということを肝に銘じておく。

自助

- 1 甘く見ない
風水害は発生しないと避難しない場合が多いなど、甘く見るケースが非常に多い。そのため避難率も低くなってしまう。危険な状況を自ら作り出している。西日本豪雨災害避難実施率（7月7日）約600万人に対して2・7万人（0・5パーセント）だった。
 - 2 正しく学ぶ
台風の特徴や集中豪雨の特徴、土砂災害の特徴など、それぞれの違い、災害発生の特徴、対処方法など正しく学ぶことが大切。
 - 3 つながる
いざという時、やっぱり頼りになるのは隣近所や、町内会などの「つながり」。みんなで助け合って、大切な命を守りあうための「つながり」を。
- 【例】
・家族で避難場所の確認・災害時持出し品の準備・情報は自分からつかむ・避難するときの安全確認を・避難は早めが基本・浸水した中での避難行動は危険！

共助

- 1 察知する
河川の水位や土砂災害の前兆、特定の情報などに注意し、危険な状況を見逃さないように地域で危険情報を察知する。
- 2 知らせる
危険な状況や避難の情報などを確実に地域住民に伝達する。要援護者など自分で情報を把握しにくい人に対して特に配慮が必要。
- 3 逃がす
どこへ逃げるのか、どうやって逃げるのか（要援護者の避難方法など）、平常時から話し合い、適切な段階に安全かつ確実に避難できるようにしておく。高齢者に「自ら判断し避難行動をとる」を求めるのは無理だということを確認しておく。

防災講演会
演題「水害から命を守る」
3月1日（金）
午後7時～午後8時30分
（火のみやぐら部会）
講師 まちの防災研究会理事長
松森和人氏



注意!!

- ハザードマップは浸水マックス値ではない！
過去に起きた水害などのデータを基に作成されているのがほとんどで、今後起こりうる水害の最大浸水深度値を表しているものではありません。たとえ浸水深度が0mの警戒エリア外でも、水害は発生すると考えられる。
- 行政からの避難の呼びかけよりも安全な行動が優先！
たとえ行政から発令されても道路が浸水しているなど安全に避難ができないような場合には、避難せずに自宅等の2階以上の高いところに留まるようにすることも考える。

避難行動の原則 守ること

- 1 災害になる前に避難する。
水害・土砂災害からの避難行動は発災に至る前が原則です。「安全な段階に、安全な場所へ、危険が去るまで避難する。」を徹底。
- 2 浸水（氾濫水）した状況の時は避難しない。
水害による犠牲は、浸水した中を移動行動をとったことによるものが最も多くなっています。立ち退き避難を要する対象者以外は2階以上の高い場所で安全を確保。
- 3 安全な行動を自分で判断し実行する。
自然災害からの避難に関しては、住民自らが判断し実行することが基本。行政の情報に頼るのではなく、自ら情報を把握し、適時適切な行動ができるようする。
- 4 その他 河川を渡らない・2日分の水食料を確保（孤立時に有効）



地域で 取り組むこと 避難力とは



- 自主防災組織などが中心となり地域で取り組むことで以下の4項目の能力を向上させよう。
- 1 認知
・住む場所などにどのようなハザード（危険）があるか
・過去の被災経験について
・ハザードからの避難方法について
・どのような支援を受けられるのかについて
以上のことを「知り」、「認める」ことが重要。
 - 2 情報
・気象状況などの内容（意味）について理解する
・行政から出される避難情報

- ・自分から情報を把握する方法と情報伝達方法
・家族との情報伝達方法
・安全に避難するためには情報の意味を理解し、適切な判断をすることが必要。

- 3 作戦
・環境別避難方法について理解
・地域内の危険度を判定し駆け込み避難などの方法を確立。
・各住民に避難方法の理解を図り、訓練を実施する。
各世帯に危険度による避難方法を伝えるとともに要援護者に対する避難方法も併せて検討する。

- 4 判断力
・様々な変化する気象状況に対して、避難の方法やそのタイミングなどを判断できるトレーニングを実施する。

最後に以下のメッセージが行政から出されたのをご存知でしょうか。

国民の皆さん
大切な命が失われる前に、
行政が一人ひとりの状況に応じた避難指示を出すことは不可能です。最後はあなたの判断です。皆さんの命は皆さん自身で守ってください。一人で避難が難しい方の援助など地域の皆さんで助け合いまししょう。

取材を終えて

あなたは、逃げないのか、それとも、逃げられないのか？
さあ、今すぐ命を守る「コミュニティを作ろう」
備えあれば憂いなし。
災害は忘れた頃にやってくる。

城でつながる。 城をつなげる。

丸岡城についての学習や周辺地域の活性化に取り組んできた地元小学生・中学生・高校生による発表会「丸岡城サミット」を平章小学校で開催しました。児童、生徒がそれぞれの視点で活動した成果を持ち寄り披露し合い、更なる城下町の未来について考えを深めました。

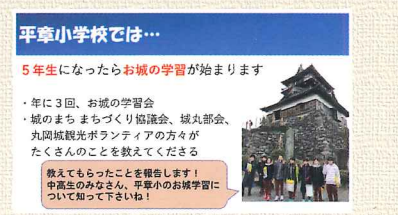
城丸部会の「第3回子ども歴史学習会」を拡大して実施したもので磯部地区の丸岡南中学校、福井県立丸岡高等学校も参加するため、小・中・高「丸岡城サミット」と題して実施しました。平章小学校5年生69名、丸岡南中1年生8名、丸岡高校生6名、丸岡観光ボランティアガイド約30名が集いました。



3月6日(水) 平章小学校生活科室
小・中・高「丸岡城サミット」
共催 丸岡城天守を国宝にする市民の会



平章小学校5年生の プレゼンテーション



5年生になるとお城の学習が年に3回あり、そこで城のまちまちづくり協議会、城丸部会、丸岡城観光ボランティアガイドの方々からたくさんのお話を教わりました。今年度は2回目の学習会を終え、69名の学びの成果を歴史グループと建物グループに分かれてその特徴などを中高生に対してクイズ形式で発表しました。

「ほくたちはこれからもしろの子として誇りをもって学習に取り組んでいきます」と宣言して結びました。

- 歴史グループからの質問
- Q お城誕生物語
- Q 人柱になった○○の霊が出る!?
- Q 井戸から○○が出て城にかすみをかける!?
- Q 歴代城主(全十七代)
- Q 大震災で、お城がとんだ!?
- Q どうして残った丸岡城!?
- Q ○○○のかすみがかる!
- Q ○○○のかすみがかる!?
- Q 建物グループからの質問
- Q 本当はもつと広がった丸岡城!
- Q お城をぐるりと囲むお堀はどんな形?
- Q お天守は何のための建物?
- Q 自然の石を積み上げた石垣
- Q 石垣の石はどんな石?
- Q 鬼がわらは○○の対!
- Q しゃほこは○○製!
- Q 全国でこだけ、
- Q ○○でできた瓦!
- Q お天守は○階建て!
- Q 一階には6本の柱!
- Q 二階には2本の柱!
- Q 日本一急な階段!上と下どちらが急?



丸岡南中学校1年生の プレゼンテーション



丸岡南中学校1年生は、総合的な学習の時間に、「実現したい丸岡の未来」について考えました。50年後を想定して、私たちのふるさと丸岡を元気にするためにどうしたらよいかを話し合っていました。丸岡城を核に何かできないかと考えました。6月5日には、実際に丸岡城周辺現地学習を行いました。4グループに分かれ、丸岡城や旧城下町、手紙の館や丸岡図書館などを実際に歩きながら、丸岡の歴史について触れ合いました。その周辺学習では、丸岡城の観光ボランティアガイドの方々にも協力していただき多くのことを学びました。

また、丸岡城天守を国宝にする市民の会が作成した「賑わいのまちづくりビジョン」を参考にして、市民の会の取り組みについても学びました。

- 具体的な活性化策として
- 特産のそばの自動販売機を設置する
- 彦根には「ひこにゃん」というゆるキャラがいる。レア感を創出して、丸岡も活用すべき
- 彦根では千人委員会を設置して世界遺産を目指している。一筆啓上の手紙作品を道路に展示してはどうか

- 歴史をしのばせる建造物や街並み景観に統一する。
- お店のデザインの一貫
- お得なクーポンでの集客
- 地元ならではの食品の活用
- 自然を多くとりこんだ城内

丸岡高校生の プレゼンテーション



美術イラスト部は商店街の店舗のシャッターにお静の絵を描いたプロジェクトを紹介しました。3ヶ月間、のべ16日間に行わたる地域活動に携わった苦労、そのやりがい、達成感を話してくれました。またE.S.S部は福井大学の留学生に英語でガイドしたり、外国人観光客に英語でガイドしたエピソードを紹介する中で、「苦しい点も多かったが丸岡城への愛がより強くなった。」と力を込めていました。英語が完璧でなくても伝えたいという意識からくるジェスチャーでなんとか通じることや、ガイドにおける臨機応変な対応も必要と感じたそうです。



E.S.S部の古城まつり
バイリンガルボランティア

全ての発表の後は小中高生が丸岡城の好きなところや、これから国宝化にむけてすべきことなどを議論し、結びに丸岡高生が後輩たちに「これで終わりではなく、県外の友達に誇れるようさらに盛り上げよう。」と呼び掛けていました。



小中高生へ記念品贈呈



取材を終えて

小学生は丸岡城の歴史と建物の特徴を理解し、中学生はそこから一歩すすめて、国宝の他のお城と比較して丸岡にフィードバックしています。高校生は小中学校で学んだことを自分の特性を生かして外部に発信して社会人とつながるレベルに到達しています。課題解決型の学習を通して生きる力を育てていると実感しました。『しろの子』として共に地域の宝の未来を一緒に築いていこう。僕たちは老いも若きも同じ方向を向いて歩んでいると感じずにはいられませんでした。

PICK UP!!



鎧兜製作講座 (城丸部会) 6月15日、7月26日、10月16日

坂井市との業務委託契約事業として、うさぎ塾(京都)の卯月永年、卯月阿子さんを講師にお招きし、受講生10名が鎧兜5領と上級武士用1領を製作中です。現在坂井市には20領を超える鎧兜があり、今回で柴田家、本多家、有馬家の家紋もそれぞれ数が増えました。将来的には更に数を増やすと同時に、受講生だけで製作ができるようになるまでのスキルを身に付けたいと意気込んでいました。一般社団法人「丸岡城を国宝にする市民の会」が策定した「丸岡城周辺賑わいのまちづくりビジョン」(前回号で紹介)の中で、お城ファンが集える寄合の場として「城小屋」をつくる計画があります。その計画の中には鎧兜製作工房を作ることが含まれていて、城のまちまちづくり協議会としても協力したいと考えています。今回出来上がった鎧兜は、城のまちの更なる活性化の一翼を担うと自負しています。

PICK UP!!



特別歴史講演会 (城丸部会) 7月14日 たかむく古城ホール 講師 クリス・グレン氏 演題「外国人から見た日本の城の魅力と丸岡城」

講師は「プラタモリ」などテレビにも多数出演されており、著書に「豪州人歴史愛好家、名城へ行く」があります。近年は自身が案内役をつとめる歴史ツアーのほか、自治体や観光施設向けのコンサルティング、インバウンド観光アドバイス、海外に情報を発信するための英語ライティングなども行っています。外国人から見た日本や日本のおもてなしという視点からお話をされ、77名の参加者それぞれに新たな発見がありました。

幸福度ナンバー1



男の料理教室(寺子屋部会) 9月29日 「上手いかわなくても、悪戦苦闘しても、自分で作った料理は絶対に美味しい!」という信念のもと、料理に挑戦しています。豚の梅風味煮・ほうれん草の白和え・越のルビーのさっぱりスープ・ずんだ白玉を作りました。



お花の寄せ植え講座 11月30日

城のまち地区敬老会 6月10日 (丸岡体育館)

地域社会において豊富な経験と知識を生かし、多年にわたり家庭を支え社会に貢献してこられたことに感謝と敬意を表します。勇気と郷土愛のもとに幾多の困難を乗り越え、無事今日を迎えられた城のまちの大先輩方、心から御礼申し上げます。当日は福井丸岡RUCKの選手が駆けつけて花を添えました。「こぼとさんご」のオンステージは笑いもあり、懐かしい歌に耳を傾けていました。



城のまちフェスティバル 8月26日 バルーンアート: 慈道めぐみさん 城のまち寄席: 林家小染さん

老いも若きも大好き! 城のまち



歴史学習会 11月15日 坂井市まちづくりパートナーシップ講座として、みくに龍翔館学芸員 角明浩氏をお迎えして、約30名が幕末維新期における坂井市域の群像とゆかりの品々について学びました。会場は知的好奇心の高い方々の真剣さに満ち溢れていました。



しろの子に伝える



もちつき体験学習 12月1日



丸岡お天守びかびか運動 12月20日

平草小学校児童が丸岡城天守の拭き掃除を行いました。天守への誇りと愛着心を胸に、床や柱などを隅々まで磨き上げました。一般社団法人「丸岡城天守を国宝にする市民の会」の呼びかけで毎年行う協力事業です。この日は5年生69名が市民の会のメンバー10名と作業しました。児童は1階から3階の床を雑巾がけ。柱や窓際も丁寧に拭き上げました。拭き残しがないか目を配り、一時間の作業で汗ばむ児童もいました。



子ども歴史学習会 10月25日 平草小学校児童5年生を対象に一筆啓上 日本一短い手紙の館・丸岡歴史民俗資料館を見学しました。歴史を学び、郷土に誇りをもってもらうきっかけづくりになりました。

和と輪を広げて

丸岡古城まつり総踊り・お天守歴史めぐり 8月12日

丸岡町の歴史的文化への理解を深めるとともに健康増進も兼ねて毎年、古城まつりに行っています。丸岡城、歴史民俗資料館、白道寺(有馬直純公・日向御前の墓)、本光院(本多家歴代墓所)、台雲寺(葺笠庵梨一の墓)の5箇所をチェックポイントに、オリジナル御朱印帳をもって回りました。参加者には素敵なプレゼントをお渡しし、喜ばれました。



第3回ユースオリンピック2018 ブエノスアイレス大会 福井丸岡RUCKのメンバーもいるU18女子日本代表を応援しました。

美しい城のまちを 次世代に



夏花植え替え作業 6月17日



プランター植え替え作業 7月2日



クリーンアップウォークラリー 10月28日



2018イルミネーション



河川功労者表彰

日本河川協会では、昭和24年(1949年)に創設以来、治水・利水・環境の観点のもとより、歴史・文化、河川愛護、国際貢献、学術研究、地域振興等の観点から、広く社会に対して功績のあった個人や団体を表彰しています。クリーンアップ田島川の事業が高く評価されました。丸岡城の外堀跡である田島川を今後もきれいに大切に後世に残したいものです。

部会アクション あ・ら・か・る・と

城下町の文化と誇りを 江戸、明治、大正、昭和、平成、そして、さらに...

コミセン活動スケッチ

ごあいさつ



城のまち区長会
会長 宮地健一郎

今年度の城のまち地区の区長会長を拜命することになりました、針ノ木区長の宮地健一郎です。何卒宜しくお願い申し上げます。

さて、我が母校、平章小学校の運動会の応援歌の歌詞の中に「霞ヶ城下の我が校に集える我らあらん」というフレーズがありました。まさしく我ら47区は現存する12の天守の一つで、日本最古の天守といわれています。丸岡城のお膝元にある城のまち地区であります。

その丸岡城のごとく凛として誇りをもって活動していきたいと思っております。

そのためにも城のまち地区の皆様のご協力、ご指導が不可欠となりますのでよろしく申し上げます。最後にになりますが、城のまち地区の皆様が笑顔で暮らせるまちになりますようにご理解とご協力をお願い申し上げます。



コミセン講座



コミセン講座



コミセン講座



ミッヅ リトル★シェフ教室 12/8(土)



ミッヅ リトル★シェフ教室 8/2(土)



ミッヅ サンドアート教室 7/26(土)

編集後記
昭和から平成に変わった1989年1月7日。当時、小淵恵三官房長官の掲げた「平成」の書の写真は、今でもハッキリ、クッキリ目に焼きついていますし、ついでこの前の出来事だったようにも思います。今、元号がある国は、世界で唯一日本だけです。だから大事にしたいという思いがあります。
新しい元号となり「平成」が終わっても、城のまちまちづくり協議会設立当初の思いを大切に、老いも若きもともに力を尽くしていきたいですね。
(丸坊主あらため横分け)



かふえコンサート



かふえ落語



かふえ民謡



しろまちかふえでは、皆様楽しんでいただけるようなイベントを企画しております。お気軽にお立ち寄りください。

平日 9時～16時まで営業。ワンコイン(100円)でセルフサービスによる飲み物(コーヒー、紅茶、お茶、ジュースetc.)とお菓子

